

1973 年 春休み明けの帰仙

1973 年 4 月 9 日(月)~10 日(火)

【1973 年 4 月 9 日(月)】

(1) 予讃線 (松山~高松)、宇野線、山陽・東海道新幹線

大学から大学院時代、最初に仙台へ行った入学試験の時から卒業するまでに何回くらい松山と仙台を往復したかを計算してみると、春休み、夏休み、冬休みと年間 3 回は往復していたので 20 回以上は往復したことになります。そのうち、何回かは遠回りして日本海側を回って帰ったこともあります。仙台に戻る時は岡山から新幹線で東京まで行くか、寝台列車で宇野から東京まで行くかのどちらかでした。

当時の航空運賃は国鉄の 2 倍位だったような記憶があり、飛行機を利用することは全く考えていませんでした。当時もスカイメイトという飛行機の運賃割引制度があり、22 歳未満の学生は空席があれば半額で飛行機に乗ることができました。しかし、学生が休みの時期は繁忙期で空席が少なく、乗れる可能性は極めて低かった。スカイメイトの利用は想定していませんでした。

予讃線は香川県の高松と愛媛県の宇和島を結ぶ路線ですが、松山から宇和島までの間は利用する機会がありませんでした。一方、松山から高松までは東京や大阪方面に行くためには必ず利用する区間でした。岡山から新幹線を利用する時は、松山を朝早く出発する特急しおかぜ号に乗りました。予讃線は何度も利用していますが、これが記録に残っていた最初の頃のデータだったので、これを予讃線の乗車記録としました。

松山を 8 時 45 分に出発した特急「しおかぜ 1 号」は、途中駅の今治と新居浜に停車し、箕浦から

予讃線のダイヤ①

(特急) しおかぜ 1 号	
松山	8:45
三津浜	↓
伊予和気	↓
堀江	↓
粟井	↓
柳原	↓
伊予北条	↓
浅海	↓
菊間	↓
伊予亀岡	↓
大西	↓
波方	↓
波止浜	↓
今治	9:29
伊予富田	↓
伊予桜井	↓
伊予三芳	↓
壬生川	↓
玉之江	↓
伊予小松	↓
伊予氷見	↓
石鎚山	↓
伊予西条	↓
中萩	↓
新居浜	10:08
多喜浜	↓
関川	↓
伊予土居	↓
赤星	↓
伊予寒川	↓
伊予三島	↓
川之江	↓

予讃線のダイヤ②

(特急) しおかぜ 1 号	
箕浦	↓
豊浜	↓
観音寺	↓
本山	↓
比地大	↓
高瀬	↓
高瀬大坊	↓
詫間	↓
海岸寺	↓
多度津	↓
讃岐塩屋	↓
丸亀	↓
宇多津	↓
坂出	↓
八十場	↓
鴨川	↓
讃岐府中	↓
国分	↓
端岡	↓
鬼無	↓
香西	↓
高松	11:32



香川県に入ります。当時は瀬戸大橋が無かったので、宇高連絡船の就航する高松に11時32分に到着しました。

宇高連絡船は高松駅のホームから階段を登った乗船口から乗船します。宇野港までの乗船時間は1時間弱で、時間的にあまり気になりません。連絡船に乗ると座席に座る前にデッキに出て、いつも立ち食いうどんを食べていました。後で食べようと思っていると混雑してくるので、先に食べるのが常連客のお決まりだったように思います。瀬戸大橋が開通して便利になりましたが、連絡船のうどんの味は忘れられません。

宇野線は岡山と宇野を結ぶ四国連絡のための路線です。宇野港に到着すると、岡山からの新幹線に乗るためには宇野から岡山まで宇野線に乗らなければなりません。寝台特急「瀬戸」の場合は宇野から乗れるため、乗り換えの点では寝台車利用の方が少し便利でした。

この日は新幹線に乗車するため、宇野を12時54分発の岡山行の快速に乗り、車窓に児島湾の干拓エリアを見ながら岡山に13時29分に到着しました。

<1973年4月9日>

○松山

| 8:45 発
| 予讃線
| (特急)しおかぜ1号[高松行] 2時間47分
| 11:32 着

○高松

□高松港

| 11:48 発
| 宇高連絡船 伊予丸[宇野行] 57分
| 12:45 着

□宇野港

○宇野

| 12:54 発
| 宇野線(快速)[岡山行]35分
| 13:29 着

○岡山

| 13:45 発
| 新幹線 ひかり 36号[東京行]4時間20分
| 18:05 着

○東京

宇野線のダイヤ

快速 3134M		
宇 野		12:54
備前田井	↓	
八 浜	↓	
常 山	↓	
迫 川	↓	
備前片岡	↓	
彦 崎	↓	
茶 屋 町	↓	
久々原	↓	
早 島	↓	
備中箕島	↓	
妹 尾	↓	
備前西市	↓	
大 元	↓	
岡 山		13:29

新幹線のダイヤ

ひかり 36号		
岡 山		13:45
相 生	↓	
姫 路		14:14
西 明 石	↓	
新 神 戸		14:37
新 大 阪		14:55
京 都		15:14
米 原	↓	
岐阜羽島	↓	
名 古 屋		16:05
豊 橋	↓	
浜 松	↓	
掛 川	↓	
静 岡	↓	
三 島	↓	
熱 海	↓	
小 田 原	↓	
新 横 浜	↓	
東 京		18:05



岡山からは13時45分発の新幹線「ひかり36号」東京行きに乗車しました。当時の岡山から東京までの所要時間は4時間10分でした。今より1時間近く余計に時間がかかっていましたが、その当時は新幹線の速度に満足していました。東京に18時05分に到着し、上野から仙台行きの特急列車に乗ることが出来る時間でしたが、この日は東京の伯父の家に泊まり、翌日の東北本線で仙台に戻りました。

【1973年4月10日(火)】

(1) 東北本線(上野～仙台)

上野と仙台を結ぶ特急は、東北本線経由の仙台行きが「ひばり」で1時間おきに発車しており、L特急「ひばり」と呼ばれていました。そのダイヤの間に、青森まで行く特急「はつかり」や常磐線経由の特急「ひたち」などもあり、急行列車も走っていました。

この日は12時発の特急「ひばり6号」に乗車し、大宮、郡山、福島、白石に停車して仙台には15時57分に到着しました。当時、仙台から松山まで電車で帰る場合、東北新幹線も開通していなかったのもので仙台を朝の6時に出発する特急「ひばり」に乗れば、松山には14～15時間後の夜9時頃に到着していたような記憶があります。当時の学生は、それが普通のことだと思っていたのですが、大学院を修了した時に仙台空港から羽田空港経由で松山空港まで初めて飛行機に乗りました。

おそらく4時間位で仙台から松山に到着したのではないかと思います、その速さにカルチャーショックを覚えたことが強く印象に残っています。

<1973年4月10日>	
○上野	
12:00 発	
東北本線	
(特急)ひばり6号[仙台行]3時間57分	
15:57 着	
○仙台	

東北本線のダイヤ (特急)ひばり6号		
上	野	12:00
大	宮	12:22
郡	山	14:28
福	島	15:01
白	石	15:25
仙	台	15:57

(注)
このダイヤは、特急
ひばり6号の停車駅の
みを記載しています。